近江八幡市における家庭教育支援の取組

■目指す姿

各小学校で、校長の構想と理念に基づき、家庭における教育力の向上を家庭教育支援チームで展開する。家庭教育支援チームは、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、家庭教育コーディネーター等で構成する。家庭教育支援チームは、事業計画に基づき必要な指示を家庭教育支援コーディネーターに与える。家庭教育支援コーディネーターは家庭教育支援チームと密に連携しながら、学校関係者や地域の団体、地域住民等のボランティア、保護者等と協力して子育て学習会、講演会等を実施する。また、地域の家庭に関する情報を学校に伝え、学校は保護者対応等に活用する。

■本年度の活動

家庭教育推進協議会：8 月 31 日(月)、11 月 6 日(金)、2 月 （市全体の家庭教育支援について協議）
家庭教育支援基盤形成事業学校担当者会議：4 月 28 日(火)
家庭教育支援コーディネーター会議：4 月 30 日(木)、10 月 6 日(火)
子育てサポーター養成講座(子ども支援課主催)に参画：6 月 12 日(金)
子育て支援ネットワーク会議(子ども支援課主催)に参画：7 月 30 日(木) 、10 月 1 日(木)
桐原東小・家庭教育研修会：11 月 19 日(木) （講師　岡田さよ子さん（家庭教育推進協議会副会長））
企業・NPO 等との連携：7 月 27 日(月)　金田小学校で、学校支援メニューフェア in 近江八幡 2015 を開催した。NPO 法人ママの働き方応援隊、日本結婚教育カウンセラー協会、NPO 滋賀次世代文化芸術センター等の家庭教育支援に資する団体が出展した。
11 月 6 日(金)　家庭教育推進協議会の中で、NPO 滋賀次世代文化芸術センターが別室登校・不登校児童生徒支援プログラムを紹介。

■本年度の成果

各小学校に家庭教育支援チームを作り、校長や家庭教育支援コーディネーターをチームのメンバーとして位置付けたことで、校長の方針のもとで家庭教育支援コーディネーターを中心に子育て支援施策を行うことができた。家庭教育支援コーディネーターは、チームの一員として孤立することなく、コーディネーターと管理職、複数の家庭教育支援担当教員が連携することで、幅広く子育て支援ができた。家庭教育支援コーディネーターは、学習会のテーマ設定の時等に、同じチームのメンバーである教育相談や生徒指導担当教員から情報・相談機会を得られたり、コーディネーターが一人で多くを背負うことがなくなり、気分が楽になったようである。

【家庭教育推進協議会】

■今後の課題

家庭教育支援コーディネーターの出勤時間が年間 45 時間しかないので十分な活動ができない。家庭教育支援コーディネーターや家庭教育支援事業の学校・保護者・まちづくり協議会等における認知度が低く、十分に事業が活用されていない。市立 12 小学校のうち学校の希望により 8 校が実施しているが、拡充のためにはコーディネーターの人材発掘・育成が必要である。

【滋賀次世代文化芸術センターの報告】

■　小学校は家庭教育支援のプラットフォーム

■　近江八幡市	
■　活動名 （　○　）学習講座・行事の実施、 （　○　）地域人材の養成 （　○　）家庭教育支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	家庭教育推進協議会３回、コーディネーター会議３回、研修等実施

コーディネーター数	８人
家庭教育支援員数	２５人
実施開始年度（Ｈ２３）	実施学校区数（８小学校校区）

■　活動の概要

市立12小学校のうち家庭教育支援事業実施を希望した8小学校に家庭教育支援コーディネーターを配属している。事業実施校には、校長、教頭、教育相談担当教員、生活指導担当教員、家庭教育支援コーディネーター等を構成員とする家庭教育支援チームを設置している。家庭教育支援コーディネーターは、家庭教育支援チームの一員として密に学校と連携しながら学校の指示や助言を得て、各学校や地域の実情に応じた保護者の交流の場や講演会、料理作りや映画会などの事業や学校への家庭・地域の情報提供などを行っている。市は、家庭教育支援コーディネーターのスキルアップのために会議や情報提供、研修会等を行っている。

〇学習講座・行事の実施

家庭教育支援コーディネーターが、家庭教育支援チームの一員として学校と密に連携しながら、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、各種行事などを行っている。市教委は、コーディネーター等対象の研修会や会議等を開催している。

〇地域人材の養成

家庭教育支援コーディネーターの資質向上や情報交換のため、コーディネーター会議を開催している。
市教育委員会は、コーディネーターに家庭教育に資する先進事例等の情報提供を行っている。
コーディネーターの横の連携や情報交換となる機会を持ち、互いにスキルアップや課題解決ができるよう図っている。

〇家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校に、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、家庭教育支援コーディネーターを構成員とする家庭教育支援チームを設置し、コーディネーターが孤立しないようチームを介して学校や管理職の指示や助言、相談を得ながら家庭教育支援活動を行えるよう努めている。家庭教育相談員が学校の要請に応じて小学校に出向き、保護者相談に応じている。

■　特徴的な活動内容

〇家庭教育支援コーディネーターによる学校への情報提供

コーディネーターは、学校では把握できない地域での家庭の評価や各家庭間の関係などを含む児童の家庭や地域の情報を学校に伝え、学校は児童の行動の背景にある家庭の実態の理解や指導等に活用している。

〇企業・ＮＰＯ等との連携

学校支援メニューフェアには、家庭教育支援に資するプログラムを持つ企業・団体も出展している。家庭教育支援コーディネーターや各小学校の教員もメニューフェアに参画し、これらの企業・団体のプログラムを見学・体験している。(株)ワコール、(株)ナリス化粧品、ＮＰＯ滋賀次世代文化芸術センター、(株)ＮＴＴドコモ等の活用実績がある。

〇コーディネーターの各小学校への配属

各小学校にコーディネーターを配属しているので、学校で学校教員とコーディネーターが意思疎通を図れている。コーディネーターは地域の人材なので、学校では知り得ない地域の情報を学校に伝え、学校は保護者対応に活用している。

■　実施に当たっての工夫

〇学校行事等の後に事業を行うなどして、参加者の負担軽減・参加者の確保に努めている。
〇コーディネーター間の横の連携や情報交換、市教委からの情報提供をとおして、コーディネーターの資質向上に努めている。
〇家庭教育支援チームを作り、校長の理念に基づいてコーディネーターが学校と一体となって家庭教育支援活動に取り組めるようにしている。

【推進協議会】

■　事業の成果

〇軽い悩みの保護者が、少人数の話し合いの場に来ることで心を軽くしている。
〇少人数で対象とテーマを絞ることで、保護者の参加意欲が高まり、悩みの軽減につながっている例もみられる。
〇コーディネーターが収集する家庭・地域の情報は、学校の児童・家庭への指導・支援等に活かされている。

【推進協議会】

■　事業実施上の課題

〇家庭教育支援コーディネーターの勤務時間数が年間 45 時間なので、十分な活動ができない。
〇コーディネーターとして適切な人材がいない等の課題により、全小学校で事業を実施できていない。

■　草津市における家庭教育支援の取組

■めざす姿

子どもたちにとって家庭は、「やすらぎ」を得る場であり、基本的な生活習慣を育むための大きな役割を担っている場でもある。

本市では、近年、子育て世帯の転入や核家族が増加しており、また家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も少なくない。

そこで、さらなる家庭の教育力の向上を目指し、子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基礎となる能力を身に付けるため、家庭における学習の場、情報の提供・啓発活動等の充実を図っている。

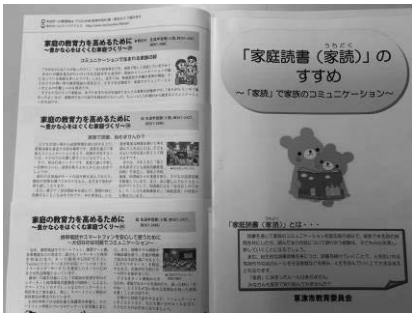
■本年度の活動

家庭教育力の向上のため、市立幼稚園、小学校、中学校の各単位ＰＴＡと連携し、子育ての手法や保護者同士の繋がり合いの中から生まれる学習等の家庭教育学習事業に対して補助金を交付することで、各単位ＰＴＡのニーズにあった家庭教育支援を実施した。

また、家庭で子どもが心豊かに成長し、よりよい生活習慣を確立するため、各単位ＰＴＡや地域住民とともに考える場として、市職員が出向いて実施するタブレットＰＣ体験や青少年の現状などをテーマにした「家庭教育出前講座」を開催するとともに、昨年度から家庭読書を中心とした「家庭教育サポート事業」を開始し、参観日やＰＴＡ研修会等にあわせ、保護者への学習機会を提供するなどの家庭教育支援を行った。

家庭教育における情報の提供として、市広報紙において、あいさつやスマートフォンの安全な使用などをテーマに、家庭教育の大切さを掲載するとともに、市ホームページに「家庭読書」のリーフレットを掲載し、読書を通じた家族のコミュニケーションについて啓発を行った。

【家庭教育出前授業の様子】



【市広報・家庭読書リーフレット】

■本年度の成果

市広報を活用し、家庭でのコミュニケーションやスマートフォンの安全な使用などの現代的課題をトピックとし、家庭で考える啓発活動を行うことができた。

また、各単位ＰＴＡへの補助制度による支援や図書館等関係各課と連携することにより、各園・小中校のニーズに合った家庭教育支援を図ることができた。

■今後の課題

講座における家庭教育支援は、比較的、家庭での教育への関心が高い人の参加が多いため、今後、家庭教育力の全体的な底上げを行うため、より効果的な事業展開を実施していく工夫が必要である。

■　本をツールに家族でコミュニケーションを

■　草津市	
■　活　動 （　○　）学習講座・行事の実施 （　　）地域人材の育成 （　　）家庭教育支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	８講座（年間活動日数　８日）

コーディネーター数	２　人
家庭教育支援員数	０　人
実施開始年度(H26)	実施学校区数（ ６小学校区）

■　活動の概要

市内小学生保護者を対象に、家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、「読書大好き草津の子ども」推進事業の一環として、家庭読書の推進による家庭でのコミュニケーション能力の向上や、保護者向けの学習プログラムを提供することにより、家庭の教育力の向上を図る。

■　特徴的な活動内容

家庭の中で子どもと保護者が行動や会話などを共有することは、家庭での絆の深まりや基本的な生活習慣を身につけるきっかけにつながる。

そこで本事業では、小学生の保護者を対象に、図書館司書や読書ボランティア等から、子どもが本を好きになるきっかけづくりについて、家庭での読み聞かせや読書、家庭の中で本を通じて子どもとふれあう時間の大切さを感じていただき、家庭教育の充実につなげている。

■　実施に当たっての工夫

・授業参観や学校行事の前後の時間に実施するなど、保護者が参加しやすい方法を心がけた。
・図書館司書と連携を深めることで、家庭での読み聞かせの方法など、保護者の方にも興味深く受講してもらえるよう内容を考慮した。
・学校ニーズを考慮しながら事業を展開した。

■　事業の成果

・家庭で本を介してのコミュニケーションを育むきっかけづくりを図ることができた。
・内容面についても、学校や図書館等と深く調整したため、充実した事業となった。
・参加者アンケートにおいても、「子どもと過ごす時間の見直しをしたい」という意見もみられた。

■　事業実施上の課題

・参加者は比較的、家庭での教育への関心が高い方が多く、多くの保護者が参加しやすい時間設定や手法など、多様な場における学習機会の提供が必要である。

【家庭教育サポート事業の様子】

■　甲賀市における家庭教育支援の取組

■めざす姿

　親子のふれあいを深め、基本的な生活習慣を家庭で身につけるための継続的な啓発と、保護者自身が気付き、考え、行動するための機会を提供する。また、地域ボランティアとして家庭教育サポーターやブックスタートサポーターなどを養成し、事業に協力いただくことで、地域全体で子育てを見守り、より身近な支援の輪を広げていく。

■本年度の活動

①学習講座・行事の実施

・はじめまして親子講座～赤ちゃんと体ほぐし・心ほぐし～（年６回）
・ふれあいベビー講座（年８回）
・親子ふれあい音楽広場（年１回）
・親子ふれあい運動広場（年９回）
・親子ふれあい食育講座（年３回）
・親子ふれあい絵本広場（年１回）
・ママも０歳・パパも０歳おはなし＆ミニコンサート（年３回）
・いきいき孫育て講座（３回連続講座）
・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園・小学校　年 16 回）

【親子ふれあい運動遊び】

②地域人材の育成

・甲賀市子育てサポーター養成講座（３回連続講座）

③家庭教育支援チームの設置・活動

・親子ふれあい音楽広場（年１回）
・家庭教育サポーター会議（年４回）
・はじめまして親子講座～赤ちゃんと遊ぼう～（年６回）

【家庭教育サポーター会議】

■本年度の成果

①今年度の「子育て親育ち講座（保育園・幼稚園）」では昨年度より実施園が増え、「命の大切さ」「噛むことの大切さ」「絵本」「運動遊び」など多岐にわたるテーマで実施し、多くの保護者に家庭教育の大切さについて啓発できた。また、「いきいき孫育て講座」「親子ふれあい食育講座」では新たな内容を盛り込んだ。講座アンケートでも全体的に満足度は高い。

②子育てサポーター養成講座ではブックスタートサポーター10 人、家庭教育サポーター５人の新規登録を得た。（全体登録者数：ブックスタートサポーター36 人、家庭教育サポーター24 人）

③家庭教育サポーター活動会議では、事業内容などの討議を行い、参加者ニーズを考慮した事業実施につながっている。

■今後の課題

・事業数が多く、他部署の事業との兼ね合いもあるため、関係部署と連携し事業の整理を行っていくことが必要である。
・サポーター登録されても諸事情で活動につながらないサポーターもおり、実働数は登録数より少ない。

■その他

・甲賀市ホームページ　家庭教育支援事業の案内　http://www.city.koka.lg.jp/4273.htm
・甲賀市広報あいこうか（家庭教育啓発記事　隔月 15 日号）http://www.city.koka.lg.jp/kouhou/

■　孫育てのコツ～大切なのは祖父母の笑顔～

■　甲賀市	
■　活　動 （　○　）学習講座・行事の実施 （　○　）地域人材の育成 （　○　）家庭教育支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	９講座（年間活動日数　５０日） ※打ち合わせ・会議等を除く

コーディネーター数	２　人
家庭教育支援員数	２５　人
実施開始年度（Ｈ２３）	実施学校区数（５小学校区）

■　活動の概要

○学習講座・行事の実施

「いきいき孫育て講座」

時代や社会変化による子育て事情の変遷を知っていただきながら、祖父母世代の意識・ギャップの緩和をはかることを目的に平成 25 年度から実施している。昔話や家でできる遊びなどを通して親や孫とのかかわり方や子育て支援への理解を深める。３回連続講座で実施。

10 月 31 日（土）第１回「まずは笑顔で孫育て～自信を持って～」 講師：山添　真寛さん

11 月 17 日（火）第２回「安全・安心　子育て基礎知識」 講師：中嶋　雅美　主任教諭（こども未来課）

12 月　５日（土）第３回「子どもの力、すてきだね」講師：東　紀子　参事（こども未来課）

開催地：甲南図書交流館（第１回、第３回）、甲南庁舎（第２回）

参加者数：第１回 21 人、第２回 16 人、第３回 17 人

■　特徴的な活動内容

今年度は甲賀市でセーフコミュニティ認証に向けての取り組みをしていることから、新たに子どもの安全について学ぶ回を設けた。講座では子どもの発達段階の変化で起こりうる事故についての講話や、屋内外の危険箇所についてグループワークを行い、危険箇所など共有した。また、人形劇を見て笑ってもらうことで、祖父母がいつも笑顔でいることの大切さや、実際に孫育て中の講師から自身の経験を交えた話や家でできる遊びや絵本の紹介などを通して、親や孫とのかかわり方を学んでもらった。

■　実施に当たっての工夫

・就労している祖父母世代の方も増えてきており、多くの方に参加していただけるように、一部開催日を土曜日に設定した。

■　事業の成果

・祖父母夫婦での参加や、孫はいないが関心を持って参加された方もおられ、祖父母世代の子育てへのかかわり方について広く啓発できた。
・人形劇、紙芝居やグループワーク、絵本紹介や折り紙などを取り入れた講座は参加者アンケートでも好評であり、参加者の満足度が高い講座を実施できた。

（以下参加者アンケート一部抜粋）

・一歩引いて余裕を持って接することができるようにしたいと思います。
・笑顔の大切さ、分かっているけどもう一度考えたい。
・事例を自分たちで考え、共有できてよかった。
・危険箇所の再認識ができた
・孫とのかかわりでは、心の余裕を持って接していきたい。

■　事業実施上の課題

・参加者が一部の地域に固まっているため、会場の場所や周知方法等さらに検討していく必要がある。
・グループワーク以外に参加者同士の情報交換の場を設けてほしいという声も上がったため、次年度以降検討したい。

■　その他

特に無し

【孫へのかかわり～一歩引いて受け止める～】

【折り紙で孫と遊べるグッズ作り】

■　湖南市における家庭教育支援の取組

■めざす姿

子どもたちにとって「家庭」は、安らぎのある楽しい場所であり、創造性や自主性、集団規範などの基本的な力を身につけて社会へ巣立っていくための基盤となる大切な場所である。しかし、現代社会の「家庭」は、多忙で孤立した状況の中で保護者が個別の責任において子育てを行っている状況がある。このことから、子育ての悩みを自由に語り合える場や人間関係を求めている保護者は、多く存在する。そのため、家庭教育支援活動では、家庭で子どもを育てることに「しんどさ」を感じている保護者に対して、それぞれの家庭がおかれている状況を踏まえ、共感しつつ相談・支援、学習講座を行っている。

■本年度の活動

（１）支援チームの設置・活動

①菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）１名　　子育てサポーター　３名

・不登校傾向や教室に入れないなどの児童の保護者支援（平成 12 年～児童支援から実施）

・保護者対象に毎週水曜日 13：00～15：00「菩っこはうす」で「ほっとサロン」を開設

②三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」への位置付け　広義のチームによる支援

コーディネーター（支援員）１名…家庭への「訪問型支援」を実施

主任児童委員、地域総合センターのスタッフ　２名

・不登校傾向や教室に入れないなどの児童の個別対応と保護者支援

③石部小学校…チーム名「さんぽ」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）１名　　子育てサポーター　２名

・保護者の悩みを少しでも取り除けるような交流による支援

・保護者対象に毎月 10 日、20 日、30 日　子育てサロン「さんぽ」を開設

（２）学習講座・行事等の実施

講演会の開催　　27 年 11 月 18 日(水)

講演(茶話会形式)「子育てについて話しましょう」　講師　石原　慶子氏

２月　三雲小学校においてＰＴＡ研修会と兼ねて実施

■本年度の成果

・支援員やスタッフは孤立している保護者と悩みを共有し、学校とも情報を共有し子どもへの支援の糸口を見い出すようにし、学校での子どもの様子を保護者に伝え、学校、家庭の連携の有効なコーディネートを進めている。

■今後の課題

・市内には、学校支援地域本部事業に家庭教育支援的な活動が位置付いている本部やコミュニティ・スクールがある。子どもへの対応について学校と支援員の共通理解を十分に図っていきたい。

・専門的な知識や豊富な実践経験をもつ講師を招聘する等魅力ある講座を企画し、子ども支援について研修できる機会をより多くの人に提供していく必要がある。

■その他　湖南市 HP http://www.city.konan.shiga.jp/

広報番組「きらめき湖南」平成 27 年 11 月放送分『楽しくて 力のつく湖南市教育』

■　親と子どもに寄り添い、見守り続ける　湖南市の家庭教育支援

■　湖南市	
■　活動名 （　○　）学習講座・行事の実施 （　○　）地域人材の育成 （　○　）家庭教育支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	３講座　（年間活動日数４５日）

コーディネーター数	３小学校　各１人
家庭教育支援員数	３小学校　各２人
実施開始年度 （Ｈ２４、２６、２７）	実施学校区数（３小学校区）

＊家庭教育支援チームの設置・活動＊

＜菩提寺小学校＞　毎週水曜日「ほっとサロン」の開催

■　活動の概要

「ほっとルーム」のメンバーを中心に、子育てや親子間の悩みや心配事を一緒に考える居場所作りと授業に入れない児童に寄り添い、見守る活動を行っている。

■　特徴的な活動内容

活動拠点の『菩っこはうす』において、学校課業日の毎週水曜日の午後、主に保護者を対象に「ほっとサロン」を開催。

事業開始前から子どもに寄り添う活動を行ってていた「ほっとルーム」のメンバーが、本事業の柱となって活動しているので、学校と家庭をつなぐ役目も担っている。

【ほっとルームで茶話会形式講演】

■　実施に当たっての工夫

今年度も参加の有無にかかわらず、毎週水曜日の午後に「ほっとサロン」を開催していることにより、参加したい人が参加したい時に気軽に訪れることができる。

支援員だけでなく以前から「寄り添い支援」で関わりのあったボランティアさんにサロン運営を手伝ってもらい、寄り添う児童の様子を担任に伝え、家庭へと情報が行くようにしている。

■　事業の成果

「ほっとサロン」を訪れた保護者は、雑談を交えながら日頃の不安や悩みを話すことにより、気持ちをリフレッシュさせて子育てに向かわれている。開催日に、下校途中の児童が『菩っこはうす』に立ち寄る、つかの間の関わりはコーディネーター、支援員と児童とのふれあい交流が生まれている。

■　事業実施上の課題

「ほっとサロン」を今後も続けていくことに変わりはないが、運営する側として、対応の仕方や事業実施の効果などを振り返り見直すことも必要である。（参加者の固定化、参加者なしの日が数回あることなど。）

■　その他

平成12年からスタートした「ほっとルーム」。今後、一緒に活動してくれる人材が増えてくれることを願っている。

＜三雲小学校＞　　定期的な「訪問型家庭教育支援」の継続

■　活動の概要

「みくもっ子支援委員会」の中に位置づけた家庭教育支援。不登校傾向児童や教室に入れない児童の個別対応と訪問型による保護者支援を重点を置いて活動している。

■　特徴的な活動内容

学校生活や放課後の時間を低学年児童と共に過ごすようにし課題のある児童との関わりを深め、学校と家庭との連携を図っている。不登校傾向の児童においては、家庭訪問を含めた個別の支援を継続している。

■　実施に当たっての工夫

児童の支援にあたっては、常に学校、地域総合センター、主任児童委員と情報を共有し、共通理解を図っている。

■　事業の成果

校内外で児童の見守りを続けていることで、保護者から相談を受ける件数が確実に増えている。また、定期的な訪問の継続により不登校傾向児童の保護者との信頼関係も深まっている。

■　事業実施上の課題

家庭教育支援を充実させるため、未就園児からの関わり、関係機関との繋がりを広げ、さまざまな支援方法を検討していきたい。

■　その他

地域で育つ子どもたちを義務教育終了まで見守る家庭教育支援の体制を徐々に作っていきたい。

＜石部小学校＞　子育てサロン部屋「さんぽ」の開設

■　活動の概要

学校・家庭・地域が連携して子どもたちの環境づくりを考え、家庭でできる簡単な取組の提案や保護者の悩みを少しでも取り除けるような交流の場、子育てサロン部屋「さんぽ」を設置。

（石部小学校学校応援団室）

■　特徴的な活動内容

・子育てサロン部屋「さんぽ」の設置
　毎月10日、20日、30日(休日と重なれば前後の日)。
・コミュニティだより「さんぽ」内で発信。
　家庭で簡単に出来る取組紹介「challenge」のコーナー
・家庭教育支援アンケートの実施。

■　実施に当たっての工夫

子育てサロン部屋「さんぽ」は、子育てに悩む人だけの部屋ではなく、保護者同士が趣味を広げたり雑談をしながら交流を深めていけるような温かい雰囲気づくりを心がけている。

＊学習講座・行事等の実施＊

＊地域人材の養成＊

■　活動の概要

参加者が自らの子育てについて研修する機会や、家庭教育を支援する人材の育成のため、ＰＴＡ等と連携して学習講座・行事等を開催。

■　特徴的な活動内容

・開催日　平成27年11月18日(水)13：00～15:00
・場所　　菩提寺小学校「菩っこはうす」
・参加者　15名
・講師　　石原　慶子氏(前　菩提寺小学校長)
　　「子育てについて話しましょう」

■　高島市における家庭教育支援の取組

■めざす姿

近年、少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹の数が減少し、保護者が子育てのスキルトレーニングがなされないまま親になることが多く、また、三世代同居や祖父母との関係性の低下、地域における人間関係の希薄化により、近所に気軽に子育ての悩みを相談できる相手がいなくなったために、地域で孤立する親が増えてきた。

このような状況を踏まえ、親子の絆づくり、祖父母や高齢者の子育てや地域の家庭教育支援を促進し、教育の原点である家庭が、子どもの「生きる力」を育む場として機能することをめざす。

■本年度の活動

①高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

・子どもの育ちを地域で見守っていくため、組織化した家庭教育支援チームの支援活動を推進。月２回、子育てひろばを開催し、子育てや家庭教育に関する相談対応や学習機会の提供など、定期的な活動を実施。

【パラソルにおける座談会の様子】

②地域教育力向上講座「にこにこすくすく孫育て講座」

・退職シニア世代がゆとりの時間を生かし、孫育てや地域参画に対する関心を高め、地域で子育て支援や青少年育成に取り組む人材を育成するため、祖父母の役割や孫への関わりの持ち方を学ぶ講義など全５回の講座を開催。

③共育研修会

・地域ぐるみで子どもたちを健やかに育てる環境づくりを整え、様々な団体が連携・団結し、地域で子どもを育てる機運を高め、充実・促進させるため、社会教育団体関係者や学校関係者、ＰＴＡ等を対象に研修会を開催。

④子どもにどうかかわりあうか講座

・市内の園・学校と連携し、公民館の出前講座として、保護者を対象にその時期に大切にしたいことなど子どもの発達段階に応じたテーマについて、子育て学習の機会を提供し、家庭での教育力の向上をはかる。

【祖父母参観後「～学校・家庭・地域教育が共働することの意義」】

■本年度の成果

・講座や研修会では、親、祖父母、地域住民等、それぞれの立場で子どもとのかかわりを振り返る機会となった。

・子どもにどうかかわりあうか講座では地域の公民館と学校とが連携を図り、各学校が課題としている内容の講座を実施し、広く保護者に子どもとのかかわり合い方について提供した。

■今後の課題

・家庭教育支援チームの本来の存在意義についての意識改革

・共存する関係団体との協働体制

■　家庭と地域が、子どもの「生きる力」を育む場に

■　高島市	
■　活動 （　○　）学習講座・行事の実施 （　○　）地域人材の育成 （　○　）家庭教育支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	２６講座（年間活動日数２４日）

コーディネーター数	１　人
家庭教育支援員数	１７　人
実施開始年度（H２６）	実施学校区数（１４小学校区）

【学習講座・行事等の実施】

共育研修会

■　活動の概要
・より良い家庭教育のあり方を考える研修会を開催。

■　特徴的な活動内容
①日　時：平成 27 年７月２日（木）10 時～12 時 30 分
②内　容：『一人でできる子が育つ「テキトー母さん」のすすめ』より
講師　子育て本著者　立石　美津子　氏
③参加者：保護者、一般市民

【立石美津子氏　講演会】

■　実施に当たっての工夫
・子育て支援所管課との協働研修会として、広く子育て世代の保護者や子育て支援者の参加を図った。

■　事業の成果
・子どもの自己肯定感を育てることの重要性を学び、子どもの成長を他の子と比べることなく認めてあげることの重要性を再認識してもらうよいきっかけとなった。また、市内図書館での講師出版本の貸出が伸び、家庭での学びを促す機会となった。

子どもにどうかかわりあうか講座

■　活動の概要
・市内小中学校および幼稚園・保育園の保護者を対象に子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供。

■　特徴的な活動内容
①実施期間：平成 27 年４月～平成 28 年３月
②対象：市内小中学校および保育園・幼稚園（私立を含む。）の保護者
③内容：各学校、保育園ごとにその課題に対し協議して実施

■　実施に当たっての工夫
・ＰＴＡ事業との共催や、授業参観に引き続いて行うなど、参加しやすい開催方法を心がけた。

■　事業の成果
・普段は講演会等に参加されない方も参加ができ、その年代の子どもにどう関わっていくかの大切さを再確認する機会となった。

【地域人材の育成】

地域教育力向上講座「にこにこすくすく孫育て講座」

■　活動の概要
・退職シニア世代を対象に孫育てや地域の子育てについて学ぶ講座を開催。

■　特徴的な活動内容
・孫と過ごすために知っておきたい内容を全５回により実施。

■　事業の成果
・受講者からは「子育てをしていた時代を振り返れた」「孫とともに成長していきたい」などの感想が寄せられ、今後の孫育てや地域の子育てに役立ててもらえるものとなった。

【孫育て講座　「孫育ては自分育て」】

■　事業実施上の課題
・参加者が少なく、連続講座ではなく単発講座に切り替えて学びたい内容に参加していただく必要がある。

【支援チームの設置・活動】

高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

■　活動の概要
・家庭教育に関する相談対応や親子で参加する取組や講座などの学習機会の提供や相談会など家庭教育支援の拠点活動を行う。

■　特徴的な活動内容
・毎月第２水曜日と第４土曜日に、「ひろばパラソル」と称し、子育てひろばを開催。相談対応については、話を聴くことを基本として、チーム員自身の子育て経験等から対応し、困難ケースについては、専門機関に繋ぐこととしている。

■　実施に当たっての工夫
・毎月平日に１日、土曜日に１日活動を行い、幅広く支援ができるように努めている。

■　事業の成果
・ひろば利用者のリピーターもおられ、保護者が子どものために来ていただく場となっていただいている方もいる。

■　事業実施上の課題
・今後、子育て支援センターとの違いを出していく必要がある。

■　東近江市における家庭教育支援活動の取組

■めざす姿

【子育て中のすべての親への学習機会の提供をめざして】

東近江市では、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指している。

そこで、本事業では家庭で親子が共に学ぶことができるよう、親自身が家庭教育の意義や役割を学習するための親の学び・家庭教育支援事業を実施し、家庭の教育力向上をめざし取り組んでいる。

特に、学校やＰＴＡ、コミュニティセンターの子育て支援講座などでは親の学びを支援する研修会が数多く開催されていることから、より多くの人を学びの場に取り込めるような工夫がなされた活動に対して支援している。

■本年度の活動

各幼稚園・保育園・子ども園、学校、コミュニティセンターと連携協力し、学習会や研修会、サロン型の学習交流会等の活動を実施している。

【平成 27 年度　家庭教育支援活動実施幼稚園、小中学校、コミュニティセンター一覧】

10 月　八日市北小学校、市辺コミュニティセンター（平田コミュニティセンターと共催）

11 月　船岡中学校、永源寺中学校

12 月　愛東コミュニティセンター、永源寺中学校

１月　中野コミュニティセンター

（開催実施時期は、協力意向申出時のもの）

■本年度の成果

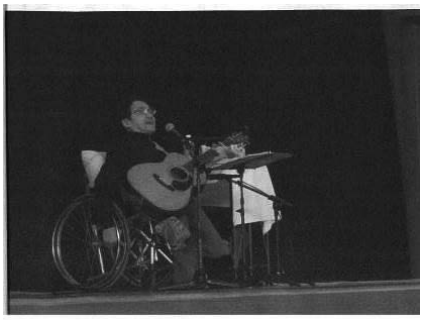
・小中学校から地域の拠点であるコミュニティセンターまで、幅広い支援ができている。

・ 特にコミュニティセンターが主催の場合、保護者だけでなく地域の人たちも参加しやすくなるため、市の目指す姿である地域全体で子どもたちを育む体制づくりへの基盤づくりができていると言える。

■今後の課題

・周知活動を、各施設に送るだけにしているためか、幼稚園・保育園からの意向が例年少ない。園長会等を通じて周知を行い、幼稚園・保育園への支援も強めていきたい。

・参加している保護者の多くは家庭教育に熱心、あるいは関心のある人であり、忙しく、家庭教育にかける時間がない保護者の参加が見込めない。そのため、共働きの家庭などでも参加のしやすいよう創意工夫を凝らす必要がある。



【小西達也さんのトーク＆ライブ（船岡中学校）】

■　親子の共育ち活動の支援

■　東近江市	
■　活　動 （　　）学習講座・行事の実施 （　　）地域人材の育成 （　○　）家庭教育支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	７講座（年間活動日数　７日）

コーディネーター数	１　人
家庭教育支援員数	０　人
実施開始年度（Ｈ２７）	実施学区数（２小学校区・２中学校区）、３施設

■　活動の概要

○　学校、園、家庭、地域と連携協力し、保護者への学習の機会の提供や子育ての相談等を通して「親育ち」を応援し、子どもが豊かな人間性を育みつつ、保護者自らも成長し、ともに安心して暮らせる環境づくりを目標に活動。

■　特徴的な活動内容

○　保護者や地域の人々を対象にした親子参加型の学習会やサロン型の学習交流会、講師を招いた研修会などの実施を呼びかけ、意向のあった学校、園、施設への支援を行った。

■　実施に当たっての工夫

○　各施設に案内を送り、年度初めの早い段階から呼びかけを行った。
○　補助の対象を講師謝礼、消耗品費、託児保育料としたことで、研修会や学習会を行ううえでのネックとなりうる資金運用の面での不安を取り除いた。
○　申請書の作成などにおいて、担当者と連絡を取り合い、開催にあたっての助言を行うことで、担当者の事務的負担を減らし、事業に集中していただいた。

■　事業の成果

○　職員会議等で周知を行った結果、コミュニティセンターからの申請が増えた。
○　事務的負担を減らし、事業の開催に集中していただいた結果、質や満足度の高い研修会や学習会を開催していただくことができた。

■　事業実施上の課題

○　参加する保護者や地域住民の多くは家庭教育に対して熱意、あるいは関心のある人で、忙しく、家庭教育に関心を向ける時間のない保護者や地域住民の参加が見込めないため、より多様な人の参加を促すような工夫が必要である。

■　その他

○　当事業の推進により、親子共々生きる力・学ぶ力を育み、生涯教育へと発展していくように今後も学校、家庭、地域の連携協働をコーディネートしていけるよう努めたい。

【カラーセラピストの講演】
（愛東コミュニティセンター）

【ジェリービーンズの演奏】
（愛東コミュニティセンター）

■　日野町における“地域で子育て”青少年健全育成の取組

■めざす姿

【地域子育てフォーラム】

子どもは地域の宝であり、地域で優しく見守られながら育っていくことが望まれている。しかし、近年は子どもや地域を取り巻く生活環境の変化等により、個々の関係性が希薄化し、昔のような地域の人・モノ・資源との関わりが少ないまま成長している子どもが少なくない。

そこで当町では「地域で子育て」という誰にでも分かりやすいメッセージを発信し、次代を担う子どもたちを地域全体で関わり育てるという意識を浸透させるとともに、学校・家庭・地域・行政の連携のもと多くの方が関わるなかで、子どもたちが地域の愛情を感じながら心豊かに成長することを目指している。

■本年度の活動

小学・中学・高校生らの思いの発表の場である青少年意見発表大会の開催に合わせ、「日野町地域子育てフォーラム」を開催した。フォーラムでは『地域で子育て』をテーマに町内で積極的に子どもたちの支援活動をされている地域団体の先進事例の発表とパネルディスカッションを行い、地域子育ての機運を高めてきた。

■本年度の成果

「日野町地域子育てフォーラム」は、行政のほかに学校やＰＴＡ、地域団体など青少年に関わる諸団体が連携して取り組むことができ、参加した地域の大人に地域でできる関わりや役割についての議論を深めることができた。また、「家庭で大切にしたいわが家の１か条」や青少年健全育成啓発標語の取り組みにより「地域で子育て」の意識向上が広く地域住民に広がってきた。

■今後の課題

子どもが健全で心豊かに育っていくには、大人が子どもに寄り添い、表情や言葉に耳を傾け、子どもの心を読み取る心掛けが必要である。そして、子どもを気づかい、それぞれの家庭で親子のふれあいを大切にし、社会のルールやマナーなどの基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、地域でも家庭教育の補完的要素を教えるなど、地域とのふれあい体験活動など実践していくことが望まれている。

【地域の先進事例の発表】

また各種の事業実施とともに、地域全体での子育て環境のあり方を見直すことの重要性について、今後も継続的に議論していく必要がある。

■　“日野のたから”を未来につなぐ　心豊かでたくましい人づくり

■　日野町	
■　活　動 （　○　）学習講座・行事の実施 （　○　）地域人材の育成 （　　）家庭教育支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	２３講座

コーディネーター数	１　人
家庭教育支援員数	８　人
実施開始年度（Ｈ２２）	実施学校区数（５小学校区）

■　活動の概要

就学前学習講座（５講座）、ＰＴＡ等子育て学習会（10 講座）、子育てサロン学習会（５講座）を実施している。

また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議（６回）、子育てサポーター会議（５回）を実施し、庁内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座（３回）を平成 28 年２～３月に予定している。

【　就学前学習講座　】

■　特徴的な活動内容

学習講座は、家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校などに保護者が集まる機会（授業参観、１日入学など）に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。

■　実施に当たっての工夫

子育て応援通信（広報紙）「ゆっくりおおきくなあれ」（毎月１日発行）を庁内の子育て関係課（日野町子育て支援チーム）が連携して発行している。内容は町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士が子育てで気をつけたいことの紹介などであるが、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化することによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

また、家に閉じこもりがちな親子が外出し、地域とふれあうことで少しでも育児の悩みや不安を軽減できるよう、昨年に引き続き地域で活動されている子育てサロンと連携し「子育てサロンスタンプラリー」を開催している。このことが子育てサロン同士の連携や参加者の増加、各種の学習会への参加機運が高まりにつながっており、効果を上げている。

■　事業の成果

○就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、１日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「この時期に聞いて良かった」「子どもの気持ちを理解することや子どもへの寄り添い方が勉強になった」など概ね高評価を得ている。

○ＰＴＡ等子育て学習会

実施単位をＰＴＡにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供することができた。

○子育てサロン学習会

対象はサロンに通っている主に在宅で子育てをされている保護者であるが、幼稚園（保育所）に通わせている保護者と比べ、保育士などの子育てについて相談できる子育て支援者が少ないことから、日頃の育児不安や悩みの解消に向け貴重な学習機会となっている。

■　事業実施上の課題

○各種学習会

保護者の参加しやすいよう学校事業に合わせて実施しているが、地域によって参加率に差がある。

在宅子育て中の保護者の中で子育てサロンに参加していない保護者に対する学習機会の提供方法や参加してもらうまでの誘導策については検討が必要。

○子育てサポーターの育成

ここ数年子育てサポーターの人員増が進まず、固定化されたメンバーとなっている。養成講座は受講されるもののサポーターとして登録・活動されるに至らない場合もあり、より多くの方に受講してもらうことはもちろん、受講後のサポーター育成にも力を注いでいく必要がある。

【　子育てサロン学習会　】

■　竜王町における取組（家庭教育支援事業）

■目指す姿

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、幼小中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努め、子どもの夢と希望を育む。

■運営委員会の設置

委員会名称	竜王町家庭教育支援運営協議会		開催数	2	委員数	10
委員名簿	氏　名	所属・役職等	氏　名		所属・役職等	
	寺嶋　恭子	幼稚園教頭	市岡　知樹		幼稚園ＰＴＡ会長	
	冨田　綾子	西幼稚園教頭	西畑　徹		西幼稚園ＰＴＡ会長	
	関谷　典子	小学校教頭	西村　実		小学校ＰＴＡ会長	
	新庄　証	西小学校教頭	谷口　智洋		西小学校ＰＴＡ会長	
	武久　雅則	中学校教頭	畑　信好		中学校ＰＴＡ会長	

■本年度の活動

講師等との事前打合せ（意見交換）

参加のためのチラシ作成と啓発活動

３月中旬　次年度事業内容の検討会

■本年度の成果

「楽しもう！夢と希望を育む子育てを。語り合おう！親育ちのために」をスローガンに開催した町全域を対象とした教育フォーラムでは、学区や学年を超えた互いの情報交換等を行い、地域や関係団体との連携を深めることができた。

また、各学校園単位で学習講座・行事を開催することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりやこれからの子育てに生かしていただくための支援をすることができた。

■今後の課題

学習講座等の参加者がまだまだ少ないので、周知方法など参加者を増やすための対策を検討していく必要がある。

■　子どもたちの夢や希望を育もう！

■　竜王町	
■　活動名 （　○　）学習講座・行事の実施 （　　）地域人材の育成 （　　）家庭教育支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	７講座

コーディネーター数	３　人
家庭教育支援員数	１０　人
実施開始年度（Ｈ２２）	実施学校区数（２小学校区）

■　活動の概要

○子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。

○町内の PTA が一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深める中で地域の教育力を醸成させる。

■　特徴的な活動内容

【竜王幼稚園】

○お弁当作り講習会

９月３日（木）、10 日（木）開催。対象は３歳児保護者。３歳児のお弁当開始に伴い、子どもたちへの「食」に対する関心を持ってもらうための「子どもの喜ぶお弁当」「簡単に作れておいしいおかず」「野菜を使ったメニュー」などを習得し、親のお弁当作りへの関心、無理なくお弁当作りに取り組める機会を提供すると共に、子どもへの食を通しての子育てに生かす。

【竜王幼稚園『お弁当作り講習会』】

【竜王小学校】

○子育て講演会『スマホやネットに潜む危険～仕組みを知って被害を防ごう～』

10 月 17 日（土）開催。対象は４年生～６年生児童、教職員、保護者。昨年度に引き続き、子どもから大人までが知らないうちに被害者にも加害者にもなり得るインターネット上での様々な問題について話を聞き、今後の子育てに生かすため、今年度も開催した。

【竜王西小学校】

○子育て教育講演会

10 月 26 日（月）開催。対象は小学生、保護者、教職員。「夢をもって学ぶ子」「相手のことを思いやれる子」「いじめを許さない子」に育つにはどうすればよいか、人権ライブを通し学習した。

○竜西フェスティバル

11 月７日（土）開催。対象は小学生、保護者。地域を題材にした大型の紙芝居の朗読を通して、地域の文化や歴史を学び、郷土を愛する心情を育てる。また、ダンスや科学実験などを親子で参加体験し地域の人との交流を深める。

【竜王西小学校『竜西フェスティバル】

【竜王町教育フォーラム 2015】

11 月 21 日（土）開催。対象は保護者、教職員。平成 27 年度竜王町ＰＴＡ連絡協議会がかかげる「楽しもう！夢と希望を育む子育てを。語り合おう！親育ちのために。」のスローガンに基づき、子どもたちの夢や希望を育み、親が育つための研修会を実施。

■　参加者の主な感想

○10 月 17 日竜王小学校で開催した子育て教育講演会では、保護者も実際にスマートフォンの正しい設定をしながら聞くことができ、我が子のことは勿論、自分自身の問題と捉えられた方が多かった。感想には「とても参考になりました。今後、親としての教育の参考とさせていただきます。」「スマホは必要ないと思っていましたが、親も実際に持ってみて、スマホのことをもっと知らなければと思いました。大変良かったです。」等たくさんあり、講演を聞きながら驚きの声や、親より色々知っている子どもの声を聞き、危機感を持たれた保護者がたくさんおられました。

○10 月 26 日竜王西小学校で開催した教育講演会では、「色んな話しが聞けて、心の底にストレートに感じることが出来ました。心に入ってきすぎて、途中涙が出そうになるくらいでした。これから先、自分の子どもが心に傷を負い、何かあったときにも、親として自分の子どもを守っていけるよう強くなりたいと思いました。」等の感想をいただきました。

■　事業の成果と今後の課題

○子どもだけでなく大人も被害にあわないために、保護者自身に今一度考え直し、今後の子育てに活かしてもらえるとてもよい講演会だった。保護者の参加が少なかったのは残念だが、今後もこうした子育て教育講演会を繰り返し続けて行きたい。

○親子で一緒に話を聞く機会を持ったので、家庭でも学んだことを生かしてほしい。